

〈福島県南地方振興局長賞〉

全国に行って分かったこと

棚倉町立棚倉中学校 3年 薄葉 千璃

私は、今年、自身初の全国大会に行きました。全国大会は岡山県で開催されるため、お金がとてまかかります。そのため、色々な企業や役場からたくさんの支援金をもらいました。

私の父と母は役場に勤めています。そこで、母にもらったお金はどこからでているのか聞いてみました。すると、「そのお金は税金から出てるんだよ。」と言われて、私はとても驚きました。

そこで、役場からもらった税金はどこから出てくるのかを調べることにしました。

インターネットで調べてみると、町からのお金は「地方税」が最も大きな部分で、住民と企業が直接収めている税金だと分かりました。地方税を詳しく調べてみると、市区町村が提供するサービス費用を賄うための税金で、私たちの暮らしの中には、教育や福祉、消防や救急、ごみ処理といった様々なサービスがあるそうです。サービスが充実することによって生活の充実度も上がるため、日々の暮らしにはかせないと思います。さらに詳しく調べると、地方税は道府県が課す道府県税と、市区町村が課す市町村税に分けられているそうです。2つの税はさらに普通税と目的税に分かれ、それぞれに3つ以上の内訳があるため、地方税の種類はとてま幅広いと分かりました。道府県税の普

通税は事業税や地方消費税、目的税は狩猟税や水利地益税といったものがあるそうです。市町村税の普通税は固定資産税や軽自動車税、目的税は入湯税や共同施設税といったものに分けられると知りました。普通税は税金の使い道が決められていないため、様々な用途に使われるため、もしかしたら私たちがもらったお金は普通税なのかもしれませんね。また、目的税は使用する用途が決められていて、法律・条例により税金の使いみちが特定されているそうです。

もし税金がなかったら、今ごろ私たちは何十万もお金を払っているようだったかもしれません。けれど、今回町の税金によって私たちの負担が減りました。

私たちの部活は、全国大会に行くにあたって、税金によって助けられたので、これからも税金に感謝し、よく理解して生活していきたいです。